

図1 遊技参加人口(年代別)

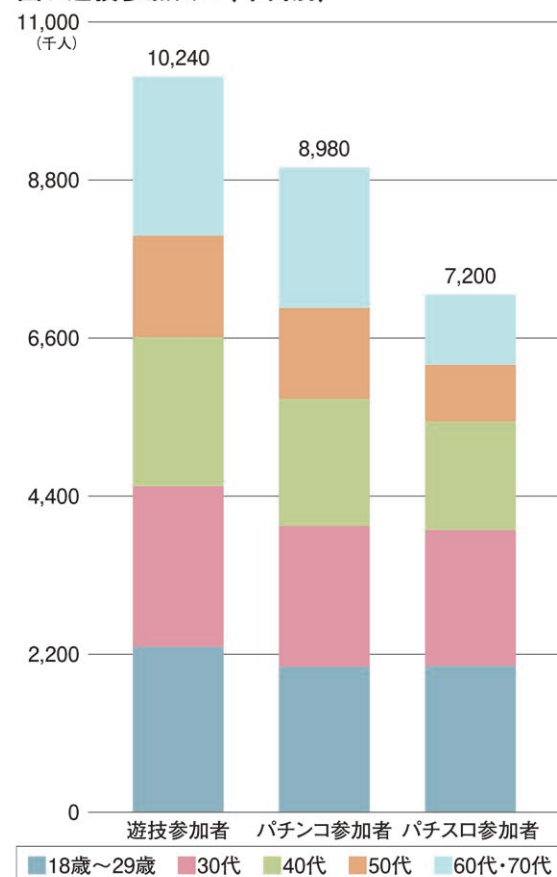
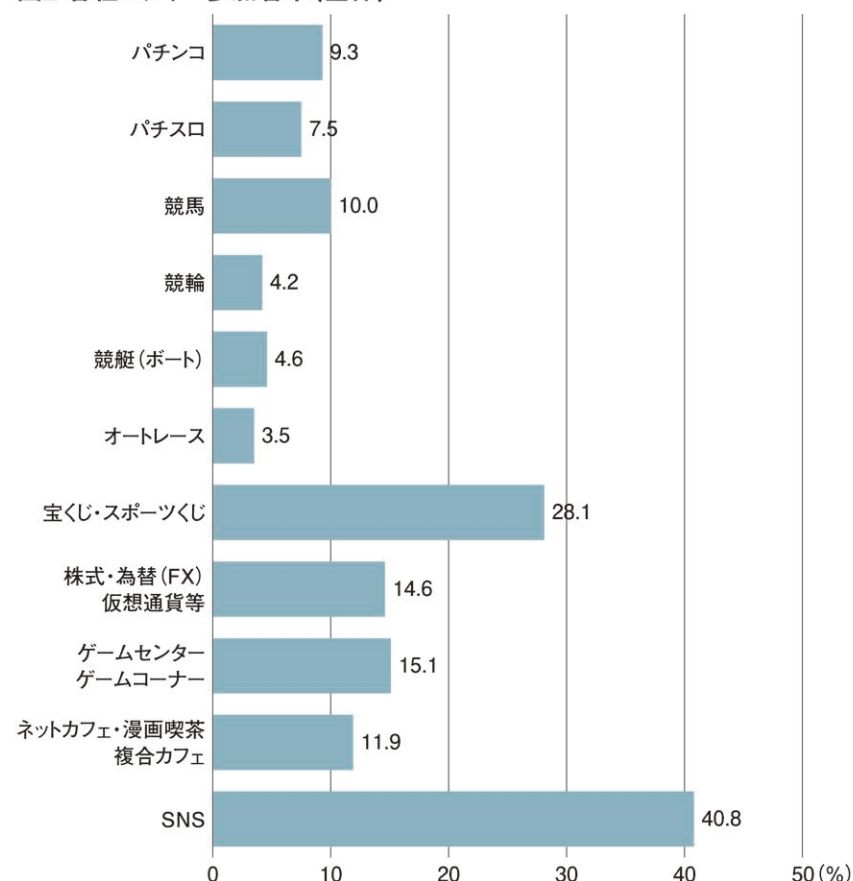


図2 各種レジャー参加者率(全体)



1. レジャー参加者率

アミューズメントプレスジャパン、シーズ、エンタテインメントビジネス総合研究所は共同で、2月中旬に全国の18歳~79歳の男女を対象にパチンコ・パチスロおよび公営ギャンブルなどのレジャーの参加経験や頻度などを調べる大規模なインターネット調査を実施した。これは例年実施している「パチンコ・パチスロプレイヤー調査」の段階であるスクリーニング調査で、回収サンプルは約3万1500サンプル。地域や年代に偏りが出ないよう回収サンプル数を割り付けた上で、国勢調査に基づく性・年代の構成比に準拠した

形でウェイトバック集計を行った。このスクリーニング調査の分析の結果、18歳~79歳における、過去1年間に「パチンコもしくはパチスロ」を1回以上遊んだ人(「遊技参加者」)の推計値は1024万人(※1)で、18歳~79歳の遊技可能人口の推計人口(※2)に占める割合は10.6%だった。年代別に見ると、遊技参加者率が高かったのは18歳~29歳で15.4%、次いで30代で15.3%。遊技参加人口(暫定的な推計)の最も多くを占めるのは18歳~29歳で22.5%、次いで30代が21.8%。60歳~79歳の人口は18歳~39歳の人口より約275万人多いが、参加率が6.9%と低い。このため、60代・70代の遊技参加人口は18歳~39歳の

半数程度にとどまっている。パチンコ、パチスロを個別にみると、パチンコの参加者率は9.3%で推計参加人口は898万人暫定値、以下同じ、パチスロの参加者率は7.5%で推計参加人口は720万人。パチンコ参加者のうち直近1年の間に始めた新規プレイヤーは推計43万人。パチスロの新規プレイヤーは推計48万人だった。ギャンブル的要素のあるレジャーの参

加者率は「競馬」が10.0%(前年同水準)、「競輪」が4.2%(同0.6p増)、「競

注1 参加人口推計は暫定値であり、今年4月に総務省統計局から発表予定の推計人口を基に、後日、本調査の正式な参加人口推計を発表する予定。
注2 18歳~79歳人口(遊技参加可能人口)は平成31年10月1日現在人口推計(総務省統計局)を基に(株)シニアにおいて推計

2020 パチンコ・パチスロ & レジャー行動分析

パチンコ・パチスロ参加率10.6% プレイヤーの3割が頻度減少

アミューズメントプレスジャパン、シーズ、エンタテインメントビジネス総合研究所が共同で企画した大規模なパチンコ・パチスロおよびレジャー参加に関する全国調査の結果、2019年の遊技参加者率は、パチスロ人口の増加によって前年調査より微増した。

GAMBLING LEISURE & PACHINKO / PACHISLOT ACTIVITIES SURVEY 2020